

**第 6 9 回大分県畜産共進会  
審 査 報 告 書**

**社団法人 大分県畜産協会**

# 審 査 講 評

## 肉牛の部 （平成 20 年 10 月 18 日）

第 69 回大分県畜産共進会、肉牛の部が皆様のご協力により無事終了し、ここに審査の結果をご報告できますことを、審査委員を代表して心からお礼を申し上げます。

今回の出品頭数は、黒毛和種去勢牛 40 頭、交雑種去勢牛 10 頭の計 50 頭でありました。

枝肉の審査につきましては、（社）日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準として行いました。

まず、黒毛和種去勢牛であります。出品牛の月齢は 25 ヶ月～29 ヶ月で、平均 28.6 ヶ月と昨年とほぼ同様でした。種雄牛別では、藤平茂 15 頭、隆茂 38 13 頭、寿恵福 5 頭、八重福栄 5 頭、喜実金 2 頭となっております。

屠殺前体重は最高 897Kg、最低 636Kg、平均 758 Kg でした。

枝肉重量では最大 589.7Kg、最小 405.8Kg で平均 496.5Kg と昨年と比較し枝肉重量は 12.9Kg 増加いたしました。

次に枝肉の格付け状況ですが、歩留等級につきましては、A 等級 29 頭 (72.5%)、B 等級以下 11 頭 (27.5%) でした。肉質等級では、5 等級 9 頭 (22.5%)、4 等級 16 頭 (40.0%)、3 等級以下 13 頭 (32.5%) で 4・5 率は【62.5】% でした。

また、肉質につきましては、脂肪交雑 (BMS No) が、3～10 で、平均 6.1、ロース芯面積は最大 69cm<sup>2</sup>、最小 39cm<sup>2</sup>、平均 52.2cm<sup>2</sup> で、皮下脂肪の厚さは、最大 6.0cm、最小 1.8cm、平均 3.3cm でありました。

これらの成績は、前年と比べ BMS No は 0.1 高く、ロース芯面積 2.3 平方 cm 小さく、皮下脂肪厚は 0.1 cm 厚くなりました。

今回は、前回に比べ 4・5 率は 5 ポイント低下したほか、A 等級の割合が全国平均の 90% と比べて低く、また、皮下脂肪が厚いことが飼養管理面での課題と思われ、今後とも更に飼養管理技術の一層の向上と改善に努めていただきたいと思います。

次に、2 区の交雑種去勢牛 10 頭の結果ですが、出品月齢は 21.4～29.7 ヶ月齢で平均 26.3 ヶ月と、昨年と比べて 1.4 ヶ月短縮されました。

屠殺前体重は平均 774Kg、枝肉重量は 500.6Kg で体重、枝肉重量ともに前回に比べ小さくなっていました。

格付け状況ですが、歩留等級につきましては B 等級 6 頭、C 等級 4 頭となっております。肉質等級では、4 等級 2 頭、3 等級 4 頭、2 等級 4 頭でした。

前年に比べ 3 等級以上の率は若干低下し、枝肉重量及び BMS No も低下しておりますので、今後とも引き続き一層の飼養管理技術の向上に努めていただきたいと思います。

## 2. 肉用牛の部(平成20年10月25日)

若雌区(1区~5区)は9ヶ月から20ヶ月齢までの57頭、母系牛群(6区)は14ヶ月齢以上の3セット9頭の合計66頭でありました。

若雌区(1区~5区)の出品牛は、各区とも全体的に発育、体積に富み、均称や前軀、中軀(体の伸び)のよいものも多く、また、惜しまれる点として、被毛の質や皮膚のゆとり、やや肢蹄の弱いものも散見されました。

今回、母系牛群(6区)で農林水産大臣賞を獲得した由布市湯布院町の渡辺さんが出品された「はつふじ」「はるか」「はるか20」のセット群はとくに種牛性が優れており発育・体積に優れ、母牛の優れた形質が娘牛に引き継がれていました。この6区は、高等登録牛の母牛と娘牛、孫娘を1セットとして競う区で、母-娘-孫娘に亘る改良の成果を競うものです。この区は全国和牛能力共進会の母系牛群と同様の出品区であり、昨年全共において大分県代表はこの区で首席を獲得し、全国的に高い評価を受けております。今後は今回の出品を契機に各地域での産子の保留推進をお願いします。

九州農政局長賞を獲得した若雌2区「ふくたか19」(父は「藤平茂」)、玖珠町の橋本さんの出品牛については、発育、体積、均称、資質に優れ、特に前中軀の移行のよさに加え、幅と深みに富んでいました。将来、繁殖牛としてのすばらしい素質を持っております。

今回の出品牛の発育(体高)については、過大な発育を避ける意味から若雌(23ヶ月齢以内)については、2 $\delta$ 、また成牛(24ヶ月齢以上)は1.5 $\delta$ を基準としていますが、全国和牛登録協会の黒毛和種正常発育曲線で2 $\delta$ を超えた牛が若雌区で57頭中6頭、10.5%に見られました。

栄養度については、概ね良好で年々改善されてはいますが、まだまだ、出品牛の中で栄養度の進んだものが見られ、栄養度7以上と判定されたものは1区、2区でそれぞれ1頭、3区、4区でそれぞれ4頭、5区で2頭ありました。

全国和牛登録協会の調査によると分娩前の栄養度6程度のものが、分娩後の初回発情、受胎成績も良好となっていますので、肉用牛の生産性の向上と経営面からも栄養度管理にご留意頂きたいと思えます。

今回の共進会を通じて、1区と2区が県有種雄牛の産子という規定が今回から設けられましたが、3~5区を父牛別に見ると、「勝忠平」10頭、「平茂勝」4頭、「隆茂38」4頭、「第2平茂勝」3頭、「藤平茂」3頭その他は11頭で、合計13頭の種雄牛産子がありました。出品条件に抵触しないものの3~5区の35頭の中で県外産種雄牛の産子が65.7%(23頭)認められたことは、今後の課題であり、豊後牛の銘柄確立を図る上で県有種雄牛産子の出品が強く望まれ、当県産系統雌牛の維持の重要性と保留促進に向けた取組みが必要と思えます。

また、全国的に見ますと血統の中に「平茂勝」が入った牛が多く、全国同じような血統になりつつあります。遺伝的多様性の維持拡大という観点から、県有種雄牛を活用し、大分らしい牛づくりを今後さらに取り組んでゆく必要があります。

今回は、わずかの差で惜しくも上位入賞を逃した出品牛も体型及び血統的に見ても改良の基礎牛として期待されるものばかりであり、今後の飼養管理に万全を期して、優良産子の生産と保留に取り組んで頂くとともに、豊後牛の銘柄確立にご尽力賜りますようお願いいたします。

### 3. 乳用牛の部(平成20年11月2日)

今回の出品は、第1部育成牛16頭、第2部育成牛10頭、第3部初妊牛14頭、第4部経産牛(3歳未満)10頭、第5部経産牛(3歳以上)11頭の合計61頭の出品であり、ホルスタイン種雌牛審査標準に基づいて厳正な審査を行いました。

なおホルスタイン種雌牛審査標準については、平成6年4月1日に改正された後、平成19年4月1日に13年ぶりに改正されました。

今回の主要な改正点は、従来5区分であったものを「体貌と骨格」、「肢蹄」、「乳用牛強健性」、「乳器」の4区分に変更し「体積」を廃止した点です。「体貌と骨格」については体貌は体の姿形、骨格は骨格構造を意味し品種の大きさとそれに合った体躯の充実、体各部の移行とつりあい、骨格構造の良否や強さ、尻の構造を評価し配点は25点です。「肢蹄」は長命性に関連深い形質であることから四肢の強さや特に後肢の形状をみるとともに蹄を重視したもので配点は20点です。「乳用牛強健性」は従来の「乳用牛の特質」に加えて乳用性の強さを求め健康で活力に満ち肋がよく開帳しているかを評価し、配点は15点となっています。「乳器」は従来と同様、配点も40点ですが前乳房の比重が増えています。

第1部については、12ヶ月令～15ヶ月令未満の育成の出品であり、総合的に資質・品位に富み、質が高く品位・パワーを感じさせるものが多く出品されていました。特に上位になった出品牛については、後躯の体積があり尻の形状がよく尻の構成が整っていて、月齢に応じた力強さを感じさせ、将来性を伺わせる出品牛が多く見られました。

ただ発育の劣る、あるいは後肢の弱い出品牛も数点、見受けられました。

第2部については、15ヶ月令～18ヶ月令未満の育成の出品であり、総合的に品位に富み、特に上位の出品牛については尻の形状、トップライン、体の伸張性、肋の幅、飛節の角度がよく、乳用性と資質の優れたものが多く見られ、レベルの高さを感じられました。

下位の出品牛については体の深さ、胸の幅に惜しい点が見受けられました。

第3部については、18ヶ月令～25ヶ月令未満のすでに種付を終了した初妊牛の出品であり、全体としてフレームが強くスケールが大きく尻の形状に優れ、特に容積、幅、角度、後躯の強さ、肢蹄の踏み、歩様、飛節の鮮明さ等、強健性に優れたものが多く見られました。

しかしながら尻の角度をみたときに座骨がやや高めのものがあり、将来的な機能性を考えたときに残念と思われるものも見受けられました。

第4部は3産未満の経産牛の出品で、鋭角性に優れ乳用性に富むものが多く見られ、特に上位の出品牛は全体のフレーム、肢蹄の強さはすばらしく、乳房の付着、高さが十分で乳頭配置もよくデイリー性に富んでいましたが、第3部と同じく座骨の位置関係に惜しい点が見受けられました。

第5部は3産以上の経産牛の出品で、総合的にフレームが大きくてしっかりしていて体全体の充実度がよく体全体の輪郭、足が鮮明で、また乳房の底面、幅が大きく乳房の質、乳用牛の特性に優れ、ムダのないデイリーキャラクターの出品牛が多くみられました。

ただし経産牛にとって乳器は大きな要素であり、出品牛に乳房炎に起因すると思われる乳房、乳頭配置をしているものが見受けられたことは残念なことです。

全体を通して、未經産牛は品の良さ、月齢に対しての胸の力と幅、体全体の長さ、足もとの筋腱の鮮明さ、トップラインに優れていましたが、全体的に肋の開帳がもう少しほしい。

経産牛については乳器の質、形状等の泌乳能力、乳用性は優れていたが、乳頭の長さ、配置にこれからの改良を期待するものもありました。

全ての区にパワーがみられ、本県の層の厚さ・レベルの高さが伺えたことから、生産者の方々の優れた改良技術、熱意に敬意を表します。

と同時に今後の飼養管理にも万全を期し、さらに牛群の改良を推し進めて頂くことを期待します。

平成20年11月

審査委員長 今吉 豊一郎